



ARTIST
NO
KOSODATE?

アーティスト
の
子育て

01 住まい 神奈川県

02 年齢 50代

03 性別 女性

04 子どもの数 1人

05 子どもの年齢 11歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

自営業のイラストレーターおよびデザイナーとして、自宅で、企業に依頼されたイラストを描いたり、企業のパンフレットを作ったり、ロゴマークを作ったりしています。そのほか、出産前から子どもが小学2年生になる頃まで、専門学校や大学で講師としてデザインを教えていました。

07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？
または過去に利用しましたか？☒ はい ☐ いいえ

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

☒ 保育園 ☐ 通常保育 ☒ 一時保育 ☐ 認可 ☐ 認可外 ☒ 幼稚園 ☐ ファミリーサポートセンター
☐ その他

夫は外で働いていて、私は産後3カ月から仕事を再開しました。子どもが1歳になってから、週に2回程度保育園の一時保育を利用し、慣れてきてからは9～17時の間預かってもらっていました。

子どもが2歳の時に今住んでいる町に引っ越し、保育園に通わせたいと思って役場に聞きに行ったら、親が在宅で仕事をしている場合は通常保育で入園させるのは難しいかもしれないですねと言われ困りましたが、当時同居していた祖母に面倒を見てもらったりもして、何とか乗り切りました。

3歳からは幼稚園に通い、週に何回かは延長保育を利用して18時まで預かってもらいました。

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉

☒ 保育園や学校に行っている間 ☒ 睡眠時間を削る ☒ 子どもが寝てから ☒ 早朝 ☒ 実家・親に預ける
☐ 配偶者に預ける ☐ 仕事の合間 ☒ 仕事が休みの日 ☐ 捻出できない ☒ その他

あまり寝ない子で、やっと寝たと思って抱っこ紐から降ろすと必ず泣き出すので、もうあきらめて常に抱っこひもを装着して制作していました。あとは車の中なら寝たので、制作に集中したい時は、夫に子どもをドライブに連れて行ってもらって、その間に作業したこともあります。

人見知りな子なので、なかなか家族以外に預かってもらうとか、迎えに行ってもらおうということはできませんでした。

**10 一日のうちで、①育児にかかる時間、②作家活動にかかる時間、③作家活動以外の仕事にかかる時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？
およその時間を教えてください。**

① 育児：0時間 → 2時間

② 作家：1時間 → 6時間

③ 仕事：8時間 → 5時間

子どもがもうだいぶ大きくなってきたので育児にかかる時間は少なくなりましたが、夜寝る前に本を読んであげたり、習い事の送迎をしたりしています。

何を作家活動とし、何を仕事とするかは切り分けが難しいところもありますね。

11 お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？

場所は変わらず自宅です。

12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？

すごく変わりました。それまでは、これ面白いからやってみようという理由で作品を制作していましたが、子どもが生まれてからは、使命感のようなものが制作動機になっています。

私は妊娠中から子どもが7歳になるまで、毎日1枚、絵日記を描き続けたのですが、きっかけは、自分の子どもを見ているのは自分だけなので、私が残さないと、と思ったことでした。そういう使命感を抱いたのは初めてで、それは私にとってとても大きな変化でした。

絵日記を毎日SNS等に投稿したり、何回か展示したりすると、子育て中の人も含めていろんな人たちがそれを見てコメントをくれて、だんだんと私一人ではなくみんな一緒に生きているんだという感覚が生まれてきました。当時は3.11があったばかりで、被曝について正しい知識を持って恐れなくてはいけない時代に、どうやって親として、また人として、生きていくかという問題を多くの人が抱えていたので、特に連帯感みたいなものが強くありましたね。

絵日記を展示すると、展覧会を見てくれた人が泣いちゃうことも結構ありました。自分が子どもだった時のことを思い出して泣いたり、育児に奮闘していたことを思い出して泣いたり。私にとって感動的だったのは、若い青年が長い時間をかけて熱心に見ていたので声を掛けて話を聞いたら、彼が小さい頃に母親が失踪しちゃったんだと言うのです。それで、彼はずっと自分の母親のことを理解できなくて、恨みを抱いたり自分を責めたりしていたそうなんです。こうして絵日記を見ると、母親って決して完璧ではなくて、こんなに悩める生き物なんだというのが分かってとてもよかったと言ってくれたんです。そういう反応をもらうと、ああ、この絵日記は自分だけの物じゃないんだなどの思いを強くしました。他にも、感想ノートに綴られたたくさんの言葉は涙なしには読めません。

子どもが6歳くらいの時に絵日記に描かれることを嫌がり始めたので、結局そこで終わりにすることにしましたが、私としては描くことに責任感や使命感も感じていたので、やめていいのか迷いました。

それから、2021年に地元の里山のイラストマップを作ったのですが、これもコロナ禍で子どもたちが公園にも自由に行けない状況をなんとかしたいというところから出発しています。みんなに山では思い切り遊べるよってことを言いたくて作りました。うちの子はインドア派で山は全然好きではないけれど、そういう子どもでも行きたくなるような宝の地図みたいな感じにしました。子どもを抱えて家に閉じこもっていきやいけない人たちのヒントになればという気持ちでした。

振り返ってみれば、もし子どもがいなかったら自分は何をやっていたらと思うくらい、子どもに関わるものを制作しています。子どものいる日常のなかで気づいたことや、これがあったら自分だけでなく他の人も助かるか

もしれないというものを形にしています。子どもがいなければ、コロナ禍もただ、ああ大変だなでスルー出来たと思うのですが、もし自分が子どもだったらとか、もし自分が小さい子の親だったらとか、色々考えるようになりました。

13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？

それまでは、意識が外へ外へと向いていて、地元よりも東京で出展したいとか、旅行に行きたい、外国を見たいという感じだったのですが、コロナを経て、横に広がるよりも地域を深く知りたいと思うようになりました。それまでは全然興味がなかった地元の歴史を掘り起こして、マップ作りにつながりました。

14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？

子どもは3歳半まで母乳を飲んでいたので、授乳しながらパソコンに向かって仕事をすることもありました。それから、子どもが2歳の時に今の家に引っ越したのですが、その時に壁面にすごく長い作り付けの仕事机を設置してもらいました。そこで私が制作や仕事をしている隣で、子どもが絵を描いたり宿題をしたりしています。ちょっと話はそれますが、うちの子は小学校に上がって間もなく学校に行くのを嫌がって、学童保育もすぐに行かなくなりました。そこで1年生から2年生の夏休みまで、毎日登下校に付き添いました。それでもたまにドアや手すりにしがみついて登校を拒否したり、朝パジャマを着替えると学校に連れていかれると思って、わざと着替えなかったりしました。私も仕事があるし、ここで許すとそのまま学校に行かなくなっちゃうんじゃないかという怖さがあって、引っ張ったり引きずったりして連れて行きました。服をもってパジャマ姿の子どもを自転車の後ろに乗せ、スピードを出して学校までの坂道を下ったこともあります。さすがに子どもはその状態になったら諦めがつくようで、無理に降りることはしませんでした。今思うと本当に危険ですが、毎朝私も子どもも死に物狂いでした。結局、2年生になって、近所に引っ越してきた年の近い子と友達になったことがきっかけで、学校に行くようになりました。

学校に行きたがらない理由は何だったのでしょうか？

隣の教室から聞こえてくる先生の怒鳴り声が怖かったり、下駄箱で体の大きい高学年の子と一緒にするのが怖かったり、あと、先生に「よしよし偉いね」って頭をポンポンされるのが嫌だったり…（笑）。それから、想定してないことが起きるのが苦手だったり、何かを指示されたり教わったりするのが苦手なので、そもそも学校に向いてないのかもしれないですね。

この前、ある男の子が悪いことをしたんだよ、と子どもが言うので、「ダメだよって言わなかったの？」と聞いたら、「2年生くらいの時にそういうこと言ってみんなに嫌われたから、もう言わないんだ」って答えたんですね。そんなことがあったというのは初耳だったので驚きました。当時も何かそういうことがあって、学校が辛い場所になっていたのかもしれない。その時打ち明けてくれなかったのは、相当ショックなことだったからなのかな、と想像してみたりします。

小さい子どもは感じたことを全部親に伝えると思いがちですが、その時は自分の複雑な感情をうまく言葉に表現できなくて泣いたり怒ったりして、時間が経って言葉で表現できる歳になってから尋ねると話してくれるということがありますね。

この前も、幼稚園の時のビデオを見て、なんでこの時怒ったのかを話してくれて、そうだったんだ！と驚いたことがありました。

学校に行くのが嫌な理由が本当は何だったのか、私がちゃんと理解できていないのに無理やり連れて行ったことが正解だったかどうかは分かりません。学校であったことを楽しそうに話す姿を見ると、学校に行けてよかったなと思うし、お友達に対して強引なことをしている姿を見ると、あの時私が強引に連れて行ったことが原因かもと今だに思ったりします。こうやって、一生ああでもないこうでもないと考え続けるんでしょうね、きっと。

15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいいますか？

私は高齢出産で、周りに子どもの年齢に近い人がいなかったの、あんまり相談しなかったです。ただ、絵日記を公開していたので、悩みを描くと、それに対して、同じくらいの年頃の子をもつ人や、かつて子育てをした人、子どもの気持ちをもっている大人などが色んな反応をしてくれて、それがとても励みになったり、安心したり、奮起したりと、大きな力になりました。

16 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやってみたいですか。

☒ リサーチ ☒ 制作 ☒ 展示 ☒ ワークショップ ☐ アーティスト・イン・レジデンス ☐ その他

今現在、やっていることです。

**17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？
特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。**

☐ 家族の協力 ☒ ひとりの時間 ☐ 収入 ☐ 美術に関する仕事への就労 ☒ 仲間の存在 ☐ その他

時間はもっと欲しいですね。それと、今力を入れている活動は自分一人ではなく仲間と一緒に進めているので、仲間の存在が大切です。

**18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、
子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。**

特に FAS がというわけではありませんが、一般的に美術館は小さい子には敷居が高いですね。私自身、子どもが小さい時は美術館などに出かける機会は減りました。子ども向けの展覧会には出かけて行ったりもしましたが、なんで触っちゃいけないのかな、なんでしゃべっちゃいけないのかなと思うことがありました。子ども向けと銘打っていないが、子ども仕様にし切れていないケースもあるので、改善されるといいですね。

それから、小さな子どもをもつ親はなかなか自分の時間がもてません。だから、そういう人を対象にした、創作をしたり知識を深めたりするワークショップは貴重だと思います。乳幼児も同伴可能なイベントを開催する場合、椅子席でなく、靴を脱いで床に座るような席があるといいかもしれません。マットを敷いておけば、子どもをあやしながら参加できます。

以前開催した絵日記展では、通常通りに壁面展示をした他、ショッピングモールなどにあるキッズコーナーのようなスペースを設けて、そこにモニターを置き、作品をスライドショーにして流しました。小さな赤ちゃんと一緒に直に床に座って鑑賞できるように、モニターの前にはふかふかのラグを敷き、クッションや積み木、絵本も置きました。キッズコーナーって隅っこに設置しがちですが、この時は会場のメインの場所にバーンと作りました（笑）。小さい子ども連れでも大歓迎だということを伝えたかったんです。

当初は来てくれる人のためにと思って作ったスペースでしたが、当時幼稚園児だった自分の子どもを連れて行ったら飽きずにそこにいてくれて、お客さんの連れてきた赤ちゃんの面倒を張り切ってみたりと、嬉しい誤算もありました。私も子育て中だったので、結局は鑑賞者だけでなく、作家本人にとっても居心地のよいスペースになりました。

子育て中の作家は、自分が鑑賞者として不自由した経験がある分、子育て中の人に参加しやすいアート活動ができと思うんです。その視点から展覧会を行うなら、会場の設営は今までにない形になるかもしれません。その受け皿として、臨機応変に対応してくれる場として FAS があったらとてもいいと思います。作家にとっても鑑賞者にとっても社会にとっても。

**19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？**

これまで通り、地元の特化したことをやっていきたいと思っています。10年後も今とあまり変わらないかなと思いますが、もしかしたら全然違うことをやっているかもしれませんね。

子どもはもう、どこにでも一緒に付いて行きたいという感じではないので、第一次子育ては一段落したと感じています。子どものために自分の行動が制約されるということがあまりなくなりました。ただ、基本的には子どもが学校に行っている間と夜に仕事をして、イベントなどで土日や遅い時間に外出する際は前もって色々準備し、何か買ってあげたりして機嫌を取ってから出かけます。

去年スイッチというゲームを買ってあげてからはもっと自由になりました。YouTubeも夢中になって見始め、急に手が離れました。私はゲームとかが好きじゃないので、非常に複雑ですけど。今なら、お昼ご飯を夫が作れば、私が昼前から17時頃まで出かけても平気だと思います。それまでも一人遊びはしていましたが、そんなに長くは続かなかったんですね。だから、土日に展示の準備で出かけるから、家で待っててとお願いするのは難しかったです。つい2年くらい前、小学校3年生くらいまでは、土日に搬入がある場合は、手伝ってもらおうという名目で子どもを連れて行っていました。それに比べると、だいぶん手が離れたなと思います。子どもに手伝ってもらおうの、私は楽しかったんですけどね。